

基本目標 I 福祉の風土を広げ、地域の困りごとに気付く力を高めよう



1 福祉の心を広げよう

私たちの目指す住民主体の地域福祉活動を実践・継続するためには、地域住民一人ひとりに、「福祉への関心」を持ってもらうことが重要です。

そのため、広報紙の発行や啓発イベントの実施などの既存の広報活動に加え、SNS等のICT（情報通信技術）の活用を図り、年齢を問わず誰もが簡単に福祉情報を手にすることができる環境づくりを行います。

また、住民、地域団体、社会福祉施設等関係機関・団体の連携促進を図るため、お互いの活動や社会福祉に関する課題解決に向けた意識を共有する機会の充実を図ります。

地域において目指すこと	
地域住民	○ 啓発イベント等への参加や広報活動への協力
校（地）区社協	○ 見守り活動等を通した福祉情報の提供 ○ 校（地）区社協だよりやHPを活用した情報発信
地域団体 ・自治会・民児協 ・老人クラブ ・婦人会 など	○ 社協だよりの回覧・配布等広報活動への協力 ○ 活動を通した福祉情報の提供
社会福祉施設 ・事業所	○ 各福祉分野の制度や動向の情報発信 ○ 広報活動への協力
NPO・ボランティア団体	○ NPO・ボランティア団体の取組の情報発信 ○ 活動を通した福祉情報の提供
企業	○ 社協だよりの配布等広報活動への協力

「北九州市の地域福祉
2021～2025」
の関連項目

- ◆ 地域で暮らす、すべての人の人権の尊重
- ◆ 福祉・ボランティアの広報・啓発及び教育の推進
- ◆ 地域での活動を始めたい人を後押しする環境づくり

北九州市社協の主な取り組み	
全部署	● 啓発イベントの開催（社会福祉大会、ボランティア啓発事業など） ● 事業や活動に関するパンフレットの発行
総務課	● ICTを活用した情報発信（SNS等の活用） ● 広報紙やパンフレットの発行 ● 「プチボザウルス」を活用した広報
区社協（区事務所）	● 校（地）区社協活動等の広報紙やICTを活用した情報発信

◆「ICT（情報通信技術）」

ICTは、TwitterやFacebookなどのSNS上でのやり取りやメールでのコミュニケーション、オンラインショッピング等、人同士のコミュニケーションを手助けする方法です。学生をはじめとした若年層の多くが利用しています。

北九州市社協では、市・区社協、ボランティア・市民活動センターなどのホームページ、ウェルとばたのFacebookに加え、155の校(地)区社協のホームページを開設し、地域福祉活動の情報発信を行っています。今後は、若年層との情報共有において効果が見込まれる、YouTubeでの動画配信やTwitter、Instagramなどのアカウント開設を行い、若年層や現役世代の方たちも気軽に地域福祉活動の情報を受け取り、地域福祉活動の担い手として活躍できる環境づくりを行います。

◆「北九州市社会福祉大会」

市民及び福祉関係者、ボランティア等が一堂に会し、社会福祉に関する課題の解決に向けた決意を新たにするとともに、永年にわたり社会福祉の発展に功績等のあった方々に感謝と敬意を表し、本市における福祉活動のさらなる普及と社会福祉の一層の充実を図ることを目的に開催される大会です。

◆「プチボザウルス」

北九州市社会福祉協議会のマスコットキャラクターです。



名 前：プチボサウルス (Petit vosaurus)
 Petit (プチ：フランス語で「小さい・ささやかな」)
 Volunteer (ボランティア)
 Saurus (サウルス≡恐竜)
 愛 称：プチボ
 誕生日：7月23日
 性 別：見た人の心に映ったまま
 好 物：子どもたちの笑顔、クッキー
 趣 味：ボランティア活動
 特 技：笑顔づくりのお手伝い

基本目標 Ⅰ 福祉の風土を広げ、地域の困りごとに気付く力を高めよう



2 福祉を学び、福祉の仲間を育もう

福祉協力員や民生委員・児童委員、老人クラブをはじめとする地域活動者のなり手不足やそれに伴う新たな担い手の発掘は、どの地域においても課題となっています。地域共生社会の実現に向けては、地域の困りごとに気付き、ともに支え合う地域福祉を目指す人づくりが必要です。

北九州市社会福祉ボランティア大学校の地域福祉の人材育成機能や年長者研修大学校の高齢者の社会参加を促す機能を活かし、地域住民の福祉を学ぶ機会の充実や地域活動者の担い手の確保に取り組むとともに、企業や社会福祉法人等が地域福祉の担い手として、社会貢献活動に取り組みやすい環境づくりを行います。

地域においては、次世代の地域福祉を担う子どもたちの「福祉の心」を育む福祉教育やウェルクラブ活動の充実を図ります。加えて、現役世代の「福祉への関心」を高めていくために、出前講演などの福祉について学ぶ機会の提供を行います。

地域において目指すこと	
地域住民	○ 地域福祉活動や福祉に関する研修、イベントへの参加 ○ ウェルクラブ活動への子どもたちの参加
校（地）区社協	○ ウェルクラブ活動の実施 ○ 福祉に関する出前講演や認知症サポーター養成講座等の実施 ○ 学校等が行う福祉教育への協力 ○ 地縁型ボランティア研修の参加、実施協力 ○ 各種研修や年長者研修大学校の周知協力
地域団体 ・自治会・民児協 ・老人クラブ ・婦人会 など	○ 福祉に関する出前講演や認知症サポーター養成講座等の実施 ○ 学校等が行う福祉教育への協力 ○ 各種研修や年長者研修大学校の周知協力
NPO・ボランティア団体	○ ウェルクラブ活動や福祉教育の協力（児童の受入、講師派遣など） ○ 各種研修や年長者研修大学校の講師派遣等協力
企業	○ 研修受講者の活躍の場の提供
社会福祉施設・事業所	○ 社会貢献活動セミナーの実施協力や参加 ○ 福祉に関する出前講演や認知症サポーター養成講座等の実施

「北九州市の地域福祉
2021～2025」
の関連項目

- ◆福祉・ボランティアの広報・啓発、及び教育の推進
- ◆地域での活動を始めたい人を後押しする環境づくり
- ◆地域共生のまちづくりを推進する人材の養成

北九州市社協の主な取り組み	
北九州市社会福祉ボランティア大学校 (研修課)	● 新たなボランティア・市民活動の担い手養成講座の実施 ● テーマ型ボランティア・市民活動者の育成 ● 小地域福祉活動者(地縁型ボランティア) 育成の実施 ● 企業・社会福祉法人におけるボランティア・市民活動者の育成 ● ボランティア・市民活動者支援者の育成 ● 研修企画の支援や情報発信、活動に関する調査・研究(例) 研修受講者の意向調査や企業等へのアンケート調査
地域支援課	● 出前講演の実施 ● ウェルクラブ活動の実施支援
区社協(区事務所)	● 学校での福祉教育の実施支援 ● 研修受講者と校(地)区社協等とのコーディネート
北九州市ボランティア・市民活動センター (活動推進課)	● 研修受講者とNPO・ボランティア団体とのコーディネート ● 夏ボランティア体験学習の実施 ● 学校での福祉教育の実施支援
生活福祉課	● 認知症サポーター養成講座の実施
年長者研修大学校 (周望学舎・穴生学舎)	● 年間コースの実施による高齢者の社会参加支援 ● 年間コース等での福祉に関する研修・体験学習の実施 ● 地域活動情報支援センターによる周望学舎・穴生学舎 研修生・修了生のボランティアコーディネート ● 周望学舎・穴生学舎修了生のボランティアグループの活動(立ち上げ含む) 支援

◆「ウェルクラブ活動」

地域の宝である子どもたち(主に小学4～6年の児童)が、見守り・助け合い・話し合いの3つのしくみからなる「ふれあいネットワーク活動」の取り組み等に参加し、小地域福祉活動を体験するものです。

この子どもたちの活動を、Well(適切、親切)・Welcome(歓迎)・Welfare(福祉)をイメージして「ウェルクラブ(Welclub)」と名づけています。



基本目標 Ⅰ 福祉の風土を広げ、地域の困りごとに気付く力を高めよう



3 見守る力を高めよう

ふれあいネットワーク活動の見守り活動を中心に、次の3つを重点取り組みとして、地域の見守る力を高めます。

① 見守り体制の充実

子どもから高齢者まで、支援が必要な住民に見守り活動が行えるよう、校(地)区社協に近隣圏域(見守りチーム)を設定し、福祉協力員の適正な配置を行います。

② 顔の見える関係づくりと困りごとの把握

各団体における(見守り)活動を通して、住民の孤立を防ぎ、人と人との顔が見える関係をつくり、生活上の困りごとを把握します。

③ 困りごとの共有と適切なつなぎ

把握した一人ひとりの困りごとを関係者で共有するとともに、行政や関係機関・団体の福祉専門職へ適切につなぎます。

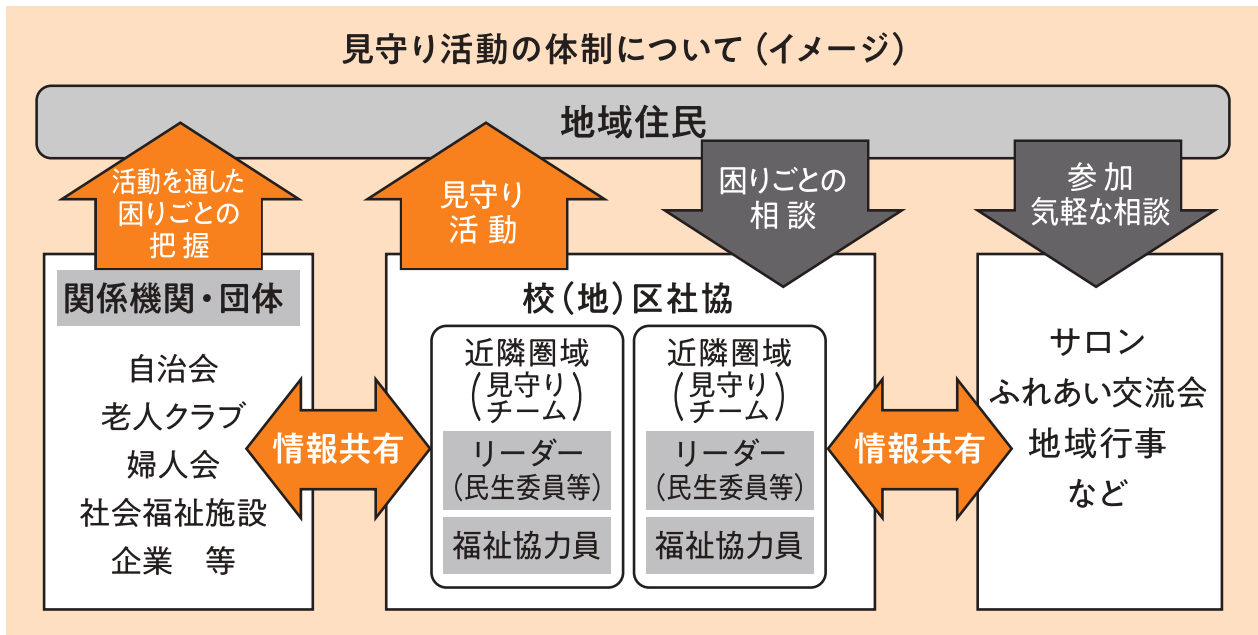
地域において目指すこと	
地域住民	○ 見守り活動への理解・協力・参加
校(地)区社協	○ 近隣圏域(見守りチーム)の設定と福祉協力員の配置
民児協	○ 支援が必要な住民に適した見守り活動の実施(頻度や方法など)
	○ 住民の困りごとの把握と適切なつなぎ
地域団体 ・自治会・民児協 ・老人クラブ ・婦人会 など	○ 福祉協力員との情報共有 例) 自治会活動や老人クラブの友愛訪問で得た情報の共有など
	○ 見守り活動の住民に対する理解促進
社会福祉施設・事業所	○ 福祉協力員等活動者への、専門性を活かした助言・支援
NPO・ボランティア団体	○ 把握した住民の困りごとの情報共有
企業	○ 業務の中で把握した住民の困りごとのつなぎ

「北九州市の地域福祉
2021～2025」
の関連項目

- ◆いのちをつなぐネットワーク事業の充実・強化
- ◆認知症対策の一体的な推進
- ◆ポストコロナ時代における「支え合い」

北九州市社協の主な取り組み	
地域支援課	● 見守り活動の支援 例) 見守り対象者の名簿やマップ等の作成支援 見守り活動に役立つツールの開発や情報提供
区社協(区事務所)	● 見守り活動における人材確保や育成の支援

北九州市社協の主な取り組み	
自立支援課	● 市・区民児協事務局運営を通じた民生委員・児童委員活動の支援
区社協（区事務所）	



◆「民生委員・児童委員」

民生委員・児童委員は、住民の抱える様々な困りごとに対して、地域の「身近な相談役」として活動するボランティアで、市内で約1,500名の方が厚生労働大臣から委嘱されています。

自らも地域住民の一員として、それぞれが担当する区域において、住民の生活上の様々な相談に応じ、行政をはじめ適切な支援やサービスへのつなぎ役としての役割を果たすとともに、高齢者、障害者、子育て世帯等の見守りなどにも重要な役割を果たしています。

◆「老人クラブ」

老人クラブとは、地域を基盤とする高齢者の自主的な組織で、市内に約35,000人の会員がいます。概ね60歳以上の高齢者30名で単位クラブを結成し、仲間づくりを通じて「健康・友愛・奉仕」の全国三大運動を中心に、地域の諸団体と協働して明るい長寿社会づくりに努めています。

会員による「友愛訪問活動」では、友愛訪問員が対象者宅へ“よき友人”として定期的に訪問し、安否確認と話し相手となる支えあい活動を基本に取り組んでいます。

また、必要に応じて、手づくり弁当やおやつの配食、家事援助などの日常生活の困りごと支援も行っています。

基本目標 Ⅰ 福祉の風土を広げ、地域の困りごとに気付く力を高めよう

3 すべての人に
健康と福祉を



4 困りごとを受け止める場をつくろう

住民が抱える困りごとが多様化している中、制度の枠を超えて受け止めるためには、困りごとを気軽に話せる場が必要です。現在、市内には校(地)区社協を中心に400以上のサロンが運営されており、仲間づくりの場、健康体操をする場、食事をしながら語り合う場、講座を開き勉強する場、多世代が一緒に遊ぶ場など様々なサロンがあります。地域にある身近なサロンが次の役割を担うことで、誰もが困りごとを抱え込まず話すことのできる地域づくりを行います。

【サロンが担う3つの役割】

- ① 子どもから高齢者まで地域の誰もが気軽に集まることができる場づくり
- ② 住民間のつながりや楽しみ(生きがい)をつくる場づくり
- ③ 困りごとを話すことができる場づくり

また、市社協、社会福祉施設等関係機関・団体もそれぞれの特徴を活かし、事業や業務を通して、住民の困りごとを受け止め、相談支援を行う体制づくりを行います。

地域において目指すこと	
地域住民	☐ 困りごとを抱え込まず、家族や友人、身近な住民に話す ☐ サロンや地域の行事に積極的に参画する
校(地)区社協	☐ 誰もが参加できるサロン活動の推進
地域団体 ・自治会・民児協 ・老人クラブ ・婦人会 など	☐ サロンの開設 ☐ サロン活動への支援(広報、会場提供など)
社会福祉施設 ・事業所	☐ まちかど介護相談室の実施 ☐ サロンの開設 ☐ サロン活動への支援(会場提供、講師等の派遣など)
NPO・ボランティア団体	☐ 団体の特徴を活かした相談支援 例) ひきこもり・不登校支援、学習支援、救護支援 等
企業	☐ サロンの開設 ☐ サロン活動への支援(会場提供、講師等の派遣 など)

「北九州市の地域福祉
2021~2025」
の関連項目

- ◆地域コミュニティ拠点の提供・支援
- ◆ポストコロナ時代における「支え合い」
- ◆地域住民の複合・複雑な課題に対応するための、包括的な相談支援の体制をつくる

北九州市社協の主な取り組み	
全部署	● 事業・業務を通して住民の困りごとを断らずに受け止める
地域支援課	● サロン活動の運営支援 (講師のコーディネートや会場確保などの支援)
区社協(区事務所)	● サロン活動の運営支援 (講師のコーディネートや会場確保などの支援) ● 住民や活動者の相談受け入れ(相談窓口としての機能)
北九州市ボランティア・市民活動センター(活動推進課)	● 助成金や講師紹介等によるサロン活動の支援
財務企画課	● 子どもの居場所づくり応援基金の運用

◆ 校(地)区社協が進める「サロン活動」

「サロン」とは、地域住民がつくる地域交流の場です。世代や障害の有無等を問わず、地域住民の誰もが身近な場所に気軽に集まり、参加者みんなで役割を担いながら、ふれあいを通して生きがい・健康づくり、仲間づくりや地域づくりの力を発揮しています。



◆ 「まちかど介護相談室」

平成30年10月15日付で北九州市と公益社団法人北九州高齢者福祉事業協会が締結した「地域の身近な相談拠点に関する協定」に基づき、身近で気軽に立ち寄れる介護等の相談窓口として、北九州高齢者福祉事業協会の会員施設約50か所に「まちかど介護相談室」が設置されています。

相談室では、各施設の職員が無料で電話や面談を行い、介護や介護予防等の相談に応じています。

◆ 「子どもの居場所づくり応援基金」

北九州市内の子ども食堂は、孤食の防止と地域の子どもと大人がコミュニケーションを図りながら、安心して過ごすことのできる居場所として実施しています。

地域住民と関係機関・団体と連携しながら、継続的に子ども食堂を応援するため、「応援基金」を創設し、子ども食堂の食材費や運営費として活用しています。